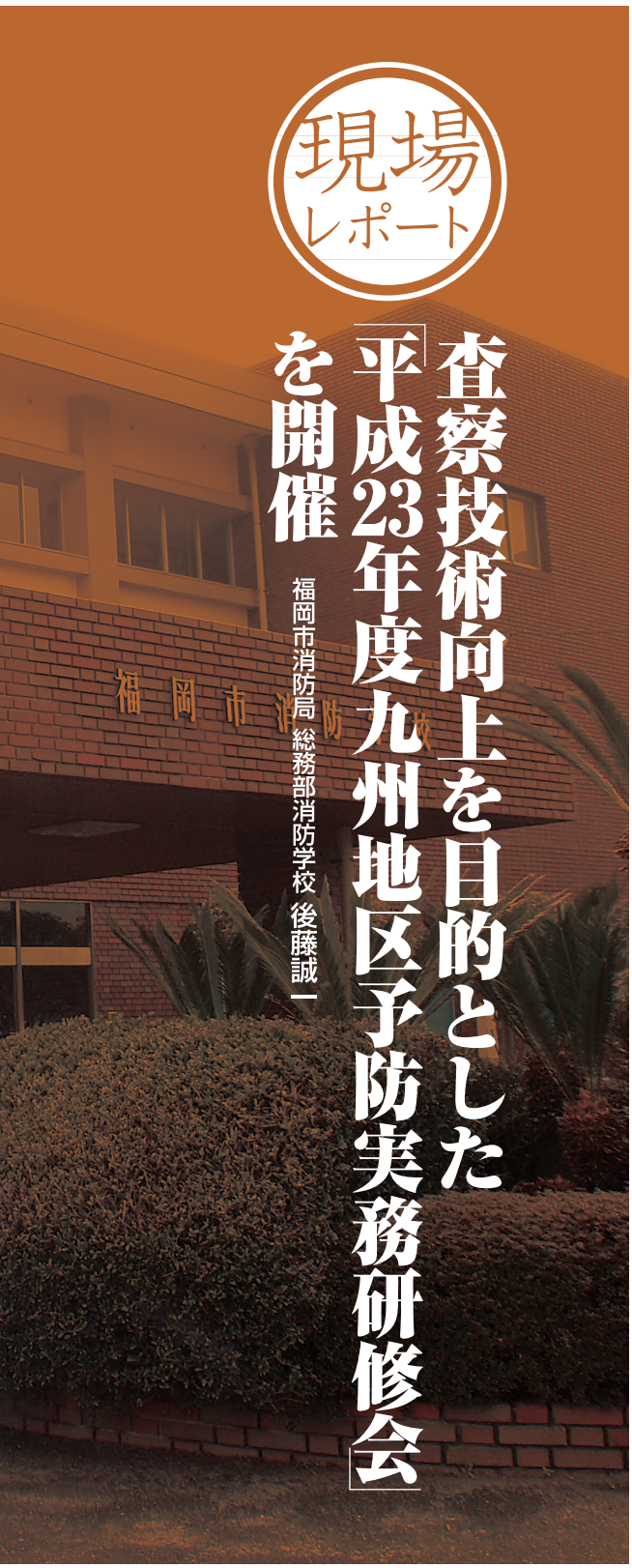

査察技術向上を目的とした「平成23年度九州地区予防実務研修会」を開催

福岡市消防局 総務部消防学校 後藤誠一

背景

近年、雑居ビルやグループホーム、またカラオケ店等において多数の死傷者が発生する火災が相次ぎ、関係法令が改正されるとともに、予防査察業務や違反是正業務の重要性が益々高まっている。

そのような中、予防業務に対処する職員の能力発揮が求められていることから、財団法人全国消防協会九州地区支部では、予防業務に従事する職員等を対象とし、査察業務や違反是正のより高度な知識及び技術を習得するため、「予防実務研修会」を福岡市消防学校において開催している。

平成21年度から実施し、今回で３回目となった予防実務研修は、査察シミュレーションや事例研究等、予防実務に関するもののほか、査察時における関係者との対応要領（コミュニケーション実習）をはじめ、個人情報保護、報道対応、裁判所見学等を取り入れた実践的なものとし、予防業務全般のレベルアップを図っていくものである。

さらに、参加している研修生たちが親密な人間関係を構築できるよう、「宿泊研修」とすることで、実務上大切な役割を果たす広域的ネットワーク作りも視野に入れた研修会としている。

平成23年度九州地区予防実務研修会の概要

⑴実施期間

平成24年１月16日㈪～1月27日㈮

⑵実施場所

福岡市消防学校

⑶参加者

九州・沖縄地区の40消防本部から43名

⑷研修内容

①予防関連基礎知識（担当講師：福岡市消防局予防部職員）

ア　防火防災管理制度
イ　査察業務の基礎知識
ウ　査察業務の問題点
エ　危険物実務（規制概要、査察要点、違反処理）
オ　違反処理（消防法第５条の３の命令要領及

研修時の模様

び実技研修）

②査察技術向上（担当講師同上）

ア　総合訓練（実施要領の習得）

小規模社会福祉施設における避難訓練をテーマに、関係者への具体的指導法や査察方法などについて実習形式で実施した。

実習では福岡市消防局作成の「避難訓練時のチェック表」を参考として使用し、施設関係者などに対し「分かりやすく指導を行う」に重点を置き実施した。

イ　査察シミュレーション

本市消防学校内をカラオケ施設、劇場、旅館、福祉施設等、様々な建物用途に想定、担当講師が各施設の仮想関係者となり、実務に即した査察を行うというシミュレーション研修を実施した。

進め方としては、まず用途ごとに情報を整理した査察台帳を作成、それに基づき立ち入り検査を実施後、講師による講評を交えた結果報告会を行った。

③講演:「違反処理の法律知識」（外部講師：関東一氏）

ア　違反処理の意義、必要性やあり方について

イ　予防行政の特質

ウ　関係者の法的責任

聴講者が加わっての講演会

エ　警告に関する法的問題

オ　措置命令の意義と役割

カ　告発

キ　告発の不作為と法的責任

ク　ホテルニュージャパン火災事件をめぐる諸問題

ケ　違反処理に関連する訴訟事例

コ　質疑応答

※講演は「公開講座」とし、福岡市消防局職員のほか、福岡県下消防本部の有志職員が聴講したもの（聴講者総数約160名、福岡市中央区内のホールに会場を移して実施した）。

④事例研究及び研究発表（担当講師：福岡市消防局予防部職員）

各研修生から提示された予防業務上の課題や、参考となる特異事例等について、班ごと（8

班）に研究を行い、その研究結果発表を行った。事案ごとに本市担当係長（査察指導、違反処理等）からのアドバイスを含めた講評がなされた。

研究内容は以下のとおり。

ア　ウィークリーマンションの用途変更について
イ　屋内における少量危険物の貯蔵取り扱いについて
ウ　違反是正事案（屋内消火栓）
エ　消防法施行令第32条の適用について
オ　廃止タンクを使用した危険物の無許可貯蔵
カ　消防法施行令改正により、自動火災報知設備が必要となった事例
キ　未申請の増築及び消防用設備未設置事例
ク　適応避難器具の見直しについて

⑤その他の研修

ア　コミュニケーション実習（外部講師）

コミュニケーションに関する基礎知識、スキル向上についての講義や立ち入り検査等における相手方とのコミュニケーション実習を実施した。

イ　情報公開・個人情報保護（福岡市個人情報保護係）
ウ　報道対応（消防局総務係）
エ　裁判傍聴（内容：有印私文書偽造、道路交通法違反）

研修会参加者の声

⑴アンケート結果

①自分にとって収穫だった科目

回答が多かったもの：①査察シミュレーション、②法律知識（関講師）、③コミュニケーション実習、④違反処理

②研修を受講して

ア　「十分満足」、「満足」…98％
イ　内容について「十分理解できた」、「理解できた」…86％
ウ　今後の業務改善や自己啓発に「十分役立つ」、「役立つ」…100％

③漢字一字でこの研修を表現すると

「絆」が最も多く、続いて「学」という回答であった。

⑵参加者の感想等

①研修生間の交流

つながりを持つことができ、情報交換をすることによって、他消防本部の状況などを知ることができた。

②違反処理について

ア　関先生の講演で、理解度が深まった。
イ　所属本部での今後の活動に非常に参考になる。

③査察シミュレーション

ア　査察結果としてあまりよくなかったが、シミュレーションで今持っている自分の知識、経験をフルに活用できた。
イ　体験型の科目は業務へのフィードバックもしやすく、理解度も高まった。
ウ　知識はもとより、関係者との接遇や順序だてた査察方法など勉強になった。

まとめ

研修カリキュラムの構築に際しては、昨年度を参考として予防部指導課（査察指導係）と協議のうえ行った。

内容のほとんどを予防指導業務の「実務」に中心を置き作成するとともに、今回特別講演として、「関 東一氏」を招聘し、違反処理に関する知識向上を図った。

また、対市民業務という観点から「コミュニケーション実習」を実施し、関係者等との対応におけるコミュニケーションスキル向上を目指した。

さらに研修生間での課題共有を目的に「事例研究」を実施し、各消防本部における事例等についての討議を行ったところ、それぞれの問題点について積極的な議論が展開され、密度の濃い課題共有が図られた。今後、研修内容を参考に、各本部での問題解決等につなげていただきたいと考える。

今回のカリキュラムにおいて、研修生がもの足りないと感じたのは、「査察シミュレーション」や「危険物実務」に関するものであった（アンケート結果による）。

次回以降ではこれらの科目について、ボリュー

グループによる法令適用等の検討

ムを増やしたり、科目によっては効果確認のための小テスト（効果測定）を実施することも一考の余地ありと考える。

今回の研修参加者については、２週間という期間ではあったが、課業中はもとより、消防学校での寮生活も助長要因となって、相互に活発なコミュニケーションが図られ、そのことにより、良好な人間関係を築くことができたと実感している。

また、消防学校での宿泊研修という、他の環境とは違う「規律」ある生活を通じて、ある種の緊張感を持続させることができたのではないだろうか。

これらの結果、「消防はひとつ」という共通の意識を持つことにつながり、問題提起や解決法などについて議論する場面では、本当に熱の入ったものとなった。

予防行政については、当該市町村の対応が基本となるが、事務処理上の疑義を解消するには、他消防本部の事例が参考となることは言うまでもない。

今回の研修は、本市を含めた各消防本部の研修生たちが「顔の見える関係」を築くことができたことで、今後の予防業務遂行に際しての幅広いネットワーク作りとその有効活用に大きく貢献できたのではないかと考える。

立入検査シミュレーション

講師の面では、査察指導係をはじめ、予防部の各担当職員により、非常にきめ細かな内容で講義を実施していただいた。特に査察シミュレーションは、状況設定を工夫したことにより、各研修生も考えさせられる場面が多かったように見受けられた。

学生が判定した指導内容については、担当講師による詳しい解説、アドバイス等がなされ、非常に有意義な研修となっていた。

本研修を通じて、九州地区消防本部における職員の能力向上を図るとともに、広域的な連携を強化していくことは非常に意義深く、研修会の今後の継続実施について十分なる必要性を感じた。